

住民税非課税世帯の方へ

物価高騰生活支援給付金を支給します

エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受ける住民税非課税世帯に対し、1世帯当たり3万円と児童1人当たり2万円を支給します。《問合せ》社会福祉課☎21-9005(給付金窓口)

▶対象 世帯全員の2024(令和6)年度分の住民税均等割が非課税である世帯

※住民税が課税されている者の扶養親族等のみからなる世帯を除く。

※基準日は2024年12月13日です。

▶追加支給 18歳以下の子どもがいる世帯には追加で子ども1人当たり2万円を支給します。

1世帯当たり3万円
子ども1人当たり2万円



▶申請方法

① 2024年2月以降に住民税非課税世帯等を対象とした給付金を受給された世帯(2023年12月2日以降で世帯状況に変化があった一部の世帯を除く)

支給予定通知書を郵送します。受取口座に変更等がなければ手続き不要です。3月以降(予定)に前回の給付金の受取口座に振り込みます。

② ①以外の2024(令和6)年度分の住民税均等割が非課税である世帯

3月上旬頃に確認書を郵送します。記載内容を確認の上、必要事項を記入し返送(郵送可)してください。確認書返送後、内容を確認の上、1カ月程度で指定口座に振り込みます。

もう申請は済みましたか?

児童手当の制度改正にかかる 申請を受け付けています

申請期限 **3月31日(月)必着**

児童手当法の改正に伴い、令和6年10月分から児童手当の内容が一部変更になりました。次の方は、申請が必要です。申請が済んでいない方は、期限までに申請してください。令和6年10月分の手当からさかのぼって支給します。令和7年4月以降に申請した場合は、申請した翌月分からの支給となり、遅れた月分の手当は支給できませんので注意してください。

《問合せ》国保・年金課☎21-9061

新たに申請が必要な方

- ▷高校生年代の児童のみを養育している
- ▷制度改正前に所得上限限度額以上の所得があったため、児童手当・特例給付を受給していない

「監護相当・生計費の負担についての確認書」の提出が必要な方

- ▷大学生年代の子を含む高校生年代までの児童を3人以上養育している。ただし、大学生年代の子は、受給者に経済的負担がある場合。(第3子以降加算の対象は大学生年代まで延長されました)

オンラインでも申請ができます

オンライン申請もしくは国保・年金課または各振興局市民福祉課で申請してください。詳しくは、市ホームページで確認してください。

※公務員の方は、勤務先に申請してください。



地域おこし協力隊紹介 ～私と活動と、時々、暮し～

都市部から地方への移住を促進する国の制度「地域おこし協力隊」。個性溢れる隊員自らが活動を紹介するシリーズ！

《問合せ》地域づくり課 ☎21-9096

豊岡市へ移住した経緯

私は医療機器と医療用医薬品を取り扱うメーカーに勤務していました。40代半ばを過ぎた頃、会社組織に属するのではなく独立して主体的に仕事がしたいと考え始めました。幼少期からものづくりが好きだった私は、農業分野への転身を決断しました。農業分野の知り合いがおらず移住先に悩んでいたところ、豊岡市の就農制度を目にしました。市役所の方は親切で、農業体験で伺った生産者の皆さんは、志が高く活気に満ち溢れ魅力的。人に優しい豊岡市への移住を直感的に決め、地域おこし協力隊に応募しました。

協力隊としての活動

1年目は、日高町にある農業法人で、栽培方法や農機具の取扱い、出荷・納品作業の研修、JA有機農業教室に参加しました。また、自分で畑を借りて35品種の野菜を慣行と有機栽培で実践しました。農業に携わり、発芽率や雑草・天候・土壌環境、病虫鳥獣被害、規格外などさまざまな生産ロスの要因を目の当

vol.45

農業の活性化を目指して

いぬい まさ やす
乾 昌靖

大阪府出身。2023年4月から豊岡市へ移住。農業未経験者が農業技術の習得と特産品となる新商品の開発を目指して農業分野で活動中。



りにしました。特に規格外という理由で、畑で処分されたり安値で販売されたりする光景は悲しくなります。生産ロスに対応できるよう、計画・実行・評価・改善を繰り返して専門性を高めていきたいです。また、朝来市地域おこし協力隊との出会いから、豊岡市のメンバー数人でホップ栽培を始めました。今後、ホップ栽培をきっかけに地域の輪を広げ、豊岡産フレッシュホップで醸造したクラフトビールが完成した暁には、栽培メンバーで祝杯をあげ、野外イベントを開催して皆さんにお届けすることが最終目標です。

2年目は但東町にあるグランドカバーの研修が加わり、株分けや挿し芽などの技術習得に励んでいます。

残り任期約1年、出合いやつながりを大切にしながら、栽培知識や技術に磨きをかけ新規就農を目指していきます。



▲豊岡産ホップを栽培

宝くじの助成金で コミュニティ活動備品を整備しました

宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源に(一財)自治総合センターが実施しているコミュニティ助成事業を活用し、コミュニティたかはし「たかねっと」がコミュニティ活動備品を整備しました。

《問合せ》地域づくり課 ☎21-9020



▲ハロウィンで「テーブル、椅子、タブレット端末、ライト、ライト用バッテリー」を活用



◀整備した備品は物置に収納



▲屋内に「テーブル、椅子」を持ち込んで備品お披露目会



▲大田和弘朗さん

コミュニティたかはし「たかねっと」人づくり部 部長 おおだ わひろあき 大田和弘朗さん

屋外イベント等に活用するテーブルや椅子、タブレット端末、キーボード、ライト、ライト用バッテリー、充電器に加え、それらを収納する物置、洗濯機などを購入しました。地域の屋外イベントが充実し、活動の輪が広がっています。